

2024年6月9日(日)

老球の細道804

### 「オラ！ スペインへ 研修スタート 」③

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅲ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富仁

何歳になっても誰と同室になるかは気になるものである。せっかく外国に来たのにパートナーに気をつかいながら生活するのも愚の骨頂。バスケットボールと同じで、相手に迷惑をかけずにいかに自分のペースにもっていかである。

会津から気心の知れた5人が参加したのだが基本的にツインの部屋が原則。外国ではシングルルームは法外な料金を徴収される。当然のごとく私が初対面の人と同部屋になる。同室になった人は川崎から参加した元中学校の先生で、退職した今でも外部コーチでがんばっている63歳の大先輩であった。トステインに心酔し、チェコでのユーロバスケットボールツアーにも参加していたのですぐに意気投合した。

その先生は何かと私に気をつかいながらも、寝る時は必ず小さな声で「おかあちゃん、誰々ちゃん（おそらく娘さん）おやすみなさい！」を言っていた。家庭を大切に人だった。私は家庭（過程）より結果だったので恐縮した。恐るべきことは夜中にトイレに起きるのがずっと一緒だった。60歳を超えると色々共通点があるようである。

【2014年 2月5日(水) 午前】

朝食後、タクシーで今回のコーチングツアーの拠点地スペインプロチーム「ウニカハ・マラガ」のクラブハウス「ロス・ギンドス」を訪問した。クラブハウスと言っても付帯施設として体育館（バスケットコート3面、トレーニングセンター、医務室、相談室、ビデオルーム等）もあり、外には3歳から17歳までバスケットボールができるアウトコートが12面（ゴールの高さに違い）もあった。さすがスポーツ大国スペインである。

いよいよ研修スタート。ウニカハ・マラガのサテライト（2軍）チームのヘッドコーチ・フランシス・トメ氏からのチーム事情説明を受けた。サテライトチームの目的はトッププロチームに何人送り込むかにある。選手もすべてトッププロを目指している。その中には高校や大学に通いながらサテライトチームでがんばっている者や始めからプロ選手として活動している者などさまざまである（当時リトアニアからサボニス兄弟が所属していた）。

トッププロにキャリアアップするための条件はディフェンスにあるという。チームのコンセプトもディフェンス重視で「チームは個人に勝る」を標榜する。大切なことはチームのために魂を捧げ最大限の努力をすること。オフェンスとのコンタクトを怖れずディフェンスを楽しむ。ヘルプをあてにするな、しかしチームメートをヘルプせよ。

次に、元スペイン代表キャプテンのカルロス・ヒメネス氏からの話を聞いた。ヒメネス氏は2006年日本で行われた世界選手権でNBAのスタープレイヤーで固めたアメリカを破り見事優勝に輝いている。現在はウニカハ・マラガのプロチームのコーチングスタッフとして働いている。英語ペラペラの文武両道トップアスリートであった。

若い世代をよりよく育てトッププロに送り込むのが仕事だが、トッププロ選手になるためには「競争する」という強いメンタリティーがないと入れない。トッププロは心技体のレベルが非常に高く、毎日の練習の中で、コーチの要求以上のレベルをこなすことが必要であるとしめくくる。スペインのプロフェッショナル世界の厳しさを知らされた。